

令和6年2月22日（木）

（連絡先）日本搬送学会名古屋事務所

（一般社団法人 福祉・介護移送ネットワーク ACT内）

電話 052-262-1311

緊急アピール 救急車の現場到着所要時間の全国平均が「10分の壁」を超えました！

令和6年1月末に総務省消防庁が公表した「令和5年版 救急・救助の現況」によれば、令和4年中の全国の救急車の出動件数は722万9,572件（対前年比103万5,991件増、16.7%増）となり、**過去最多を更新しました。**

これは日本のどこかで約4.4秒に1回（前年約5.1秒に1回）の割合で救急車が出動し、国民の約20人に1人（前年約23人に1人）が搬送された計算となります。

また、救急出動件数の増加に伴い救急車の現場到着所要時間も遅延し、令和4年中の全国平均が**初めて10分の壁を超える「10.3分（対前年比0.9分増）」**となりました。救急車の病院収容時間の全国平均も前年から約4.4分遅延し、47.2分になりました。

こうした救急車の遅延は、国民の生命に対する重大なリスクとなっています。国際的な統計指標であるウツタイン様式による心肺停止傷病者の社会復帰率は、令和元年の25.5%をピークに3年連続低下し、令和4年は20.8%になりました。

私たち日本搬送学会は、我が国の患者搬送を取り巻く環境が危機的状況にあると認識しています。さらに危機的状況にあるにもかかわらず、それほど大きな社会的関心事になっていないことに危惧し、ここに緊急アピールを發します。

### 緊急アピール

令和4年中の救急車の現場到着所要時間の全国平均が初めて10分の壁を超え、10.3分（対前年比0.9分）となった。

救命救急医療は、1分1秒が救命の分岐点となる。このまま救急車の遅延が進めば、多くの救命のチャンスを失うこととなる。そしてそれは、あなたの家族であったり、友人であったり、恋人であったりするかもしれない。

（国民の皆様へ）

- 不要不急の救急要請は控えること。救急車が必要かどうかの判断に迷ったら、救急安心センター（#7119）へ相談すること。

（消防の皆様へ）

- 救急要請受信から医療機関到着までの各活動について、時間を基軸として総点検すること。

（医療機関の皆様へ）

- 緊急性のない患者の転院搬送は、救急車以外の方法を選択すること。

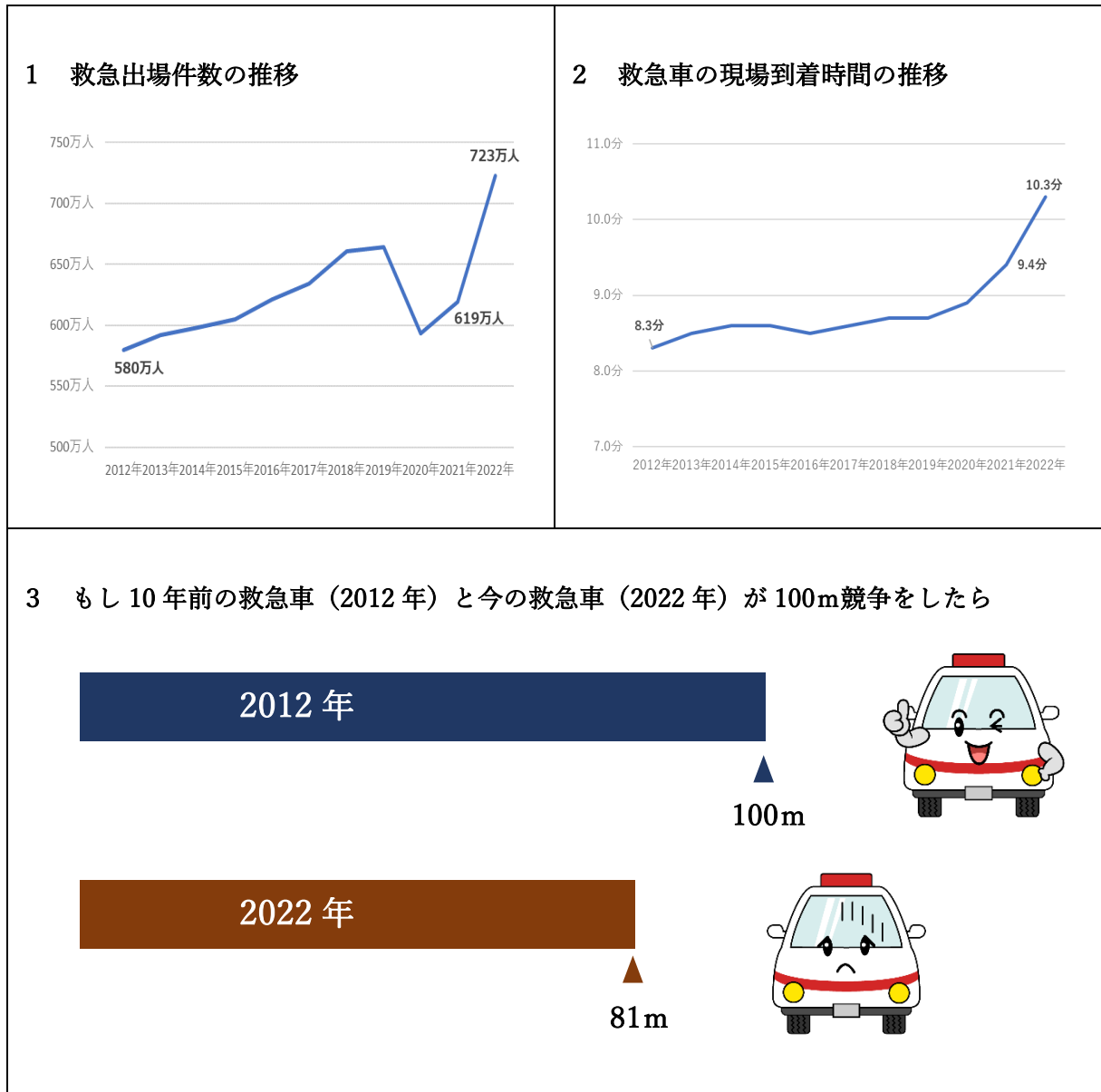
（行政・議員の皆様へ）

- 救急車の有料化を含むタブーのない検討を促進し、患者の緊急度に応じた救急車と民間事業者の分担搬送体制を構築すること。

令和6年2月22日

日本搬送学会 代表 野口 宏（愛知医科大学名誉教授）

(参考)



データ：令和5年版 救急・救助の現況（総務省消防庁）

### 日本搬送学会のプロフィール

すべての人が搬送で困らない社会を実現するため、日本のあらゆる搬送環境の継続的改善を目的とした学術研究及び実行団体として2023年9月9日に設立しました。

2024年6月に一般社団法人化を予定しています